



たいしも通信

自衛隊の装備シリーズその5、陸自編2周目です。個人的見解ですが、陸自というよりは戦車というイメージがあり、前回は10式戦車について触れましたが、今回は最新の16式MCV (Maneuver Combat Vehicle/機動戦闘車)について触れることとします。

◆16式MCVは戦車なのか？

戦車は大砲がついた旋回式の砲塔と履帯(キャタピラー)を持つというのが一般的です。今回とりあげる16式MCVは8輪の大型タイヤが付いた戦闘車です。既に形や名前からして戦車ではない、とか、そもそも前回「16式は戦車と同様の大口徑砲と立派な砲塔を持っているが、正式には戦車ではなく戦闘車に分類される」などと書いており、さらに陸自には他にも6輪や8輪で、装甲や武器についてもそこそこの車両が何種類もあり、違いがよく分からない、と思われると思います。

そこで調べてみると、16式は重装輪装甲車という分類となり、歩兵戦闘車(戦車に同行して歩兵を輸送)と区別するものの、戦車ほどではないにせよ一般的な装甲車よりは積極的に戦闘に参加させることから、戦闘車、という区分となったようです(装輪戦車と呼ぶ場合もある)。

◆16式MCVのコンセプト

さて、そもそも、日本の戦車(今回の戦闘車含む)の主戦場はどこになるのでしょうか？ 以前は北海道の広い原野でしたが、相手場所も変わり、昨今では多分西日本、場合によっては比較的小さな離島ではないでしょうか。

北海道であれば、もともとそこに集中配備しておくことも可

能ですが、西日本ではそうはいきません。となると、自力で進出したり、場合によっては艦船等で輸送しなければなりません。

前回とりあげた10式は、戦車の中では比較的小型で軽量なため、日本の道路事情において、移動や展開がはるかに容易(ただし基本的にトレーラー使用)で、鉄道輸送も可能になったとお伝えしました。確かにこれは画期的なことです。とはいえ、重量50トン弱、最高速度も時速70キロ程度、ただしキャタピラー装備のため、自走では道路や車体に大きな負荷がかかります。

対して16式の最高速度は時速100キロ以上、重量も26トン程度と、自走による長距離の移動も十分可能で、その際も車体や道路への負担も少なく、地方において渡れる橋が格段に多くなり、何より空自のC-2による輸送も可能です。

最も懸念されるのが武装と装甲だと思いますが、さすがに重量制限から、戦車と同等の装甲は持てません。主砲は国産の105ミリ砲で、これは74式戦車と同等です。どちらも装甲車よりは強力なもの、やはり対戦車戦となると不安が残ります。しかし相手側も、最初から日本本土にへビー級戦車の大量投入はできないのではないのでしょうか。そして、そのような状況下で機動展開が可能な16式が、真価を発揮できるのだと思います。

▼編集後記▲

年末にもかかわらず、あまり季節感のない内容となってしまいました。更に加えて、今回取り上げた16式、当初は乗員用冷却システム(エアコンのこと)無しで装備が始まったそうで、さすがに現在では徐々に装備されつつあるそうです。様々な理由や背景もあるのですが、今回の防衛費増額により解消されることを切に願います(もちろん他の車両も)。

例によって、内容に関する責任は全て支部長にあります。特に規則等に定めているもの以外は私の個人的見解が色濃く反映されていますので、ご意見等ございましたら遠慮なくお知らせ下さい。